

●プロフィール

金森博雄博士は1936年東京都に生まれ、1962年に東京大学理学部助手に着任、1964年に理学博士取得、1970年に東京大学地震研究所教授に昇任されました。その後1972年にカリフォルニア工科大学教授となられ、2005年に同大学の名誉教授の称号を与えられています。この間、50年以上も現代地震学の第一人者として、地震発生の物理、地震テクトニクスをはじめとする幅広い地震学の研究分野において常に最先端の研究をされてきました。その研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されておられます。金森博雄カリフォルニア工科大学名誉教授は、1985年から2年間米国地震学会会長を務められ、2012年からは全米科学アカデミー会員になっておられます。また、米国地震学会Reid medal、米国地球物理学連合Bucher medal、全米科学アカデミーAuthor L Day 賞、日本学士院賞、文化功労者、京都賞といった多くの賞を受賞されています。



●防災研究所とのかかわり

防災研究所においては、招へい外国人学者として、2002、2005、2006年度にそれぞれ2～3ヶ月間滞在され、「日本の地震活動と応力」や「リアルタイム地震情報」をテーマに共同研究を進められました。また、これらの研究内容に関連した地震学の講義・ゼミナールを行い、地震学・地震工学・耐震工学を中心とした地震防災に関係する分野の学生、若手研究者への教育を熱心に行われました。さらに、理学研究科の大学院生や若手研究者とも突っ込んだ議論を行われ、研究方針についての有益なコメントを沢山いただきました。また地震予知研究センター阿武山地震観測所に保管されている古い地震記録を活用して、過去及び最近の宮城沖地震の分析を行い、太平洋プレート運動との比較から巨大地震発生の可能性を指摘した論文を発表されています

(Kanamori, Miyazawa and Mori, 2006, Earth Planets and Space)。

これらの共同研究や学生・若手研究者への長年にわたる研究・教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。金森博士にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も防災研究所の研究・教育に大所高所からご助言いただければ大変ありがたいと思っています。